

申込方法等

●利用は原則無料です

講師の方への謝礼や交通費については、ほほえみ交流活動支援事業推進委員会が負担しますので、原則、学校等で負担していただく必要はありません。

※申込みの詳細や申込書等の様式は、学校等宛にお送りするご案内又はホームページをご覧ください。

申込み

実施希望日の1箇月前までに、申込書を障害保健福祉推進室にメール又はファックスで提出してください。
※「事業リスト」に掲載されているテーマ以外にも、実施団体（前ページ参照）が実施可能な内容であれば、当事業を利用していただけます。申込時に所定の様式を申込書と併せて提出してください。

日程等の調整

障害保健福祉推進室から障害者団体に申込みがあったことを連絡し、日程調整等を依頼します。
障害保健福祉推進室は障害者団体から日程調整結果の報告を受け、申込者に実施日等についてお知らせします。
その後、障害者団体と申込者で事業の詳細を調整してください。

事業の実施

調整した日時に、障害者団体が学校等を訪問するなどして事業を実施します。

事業の実施報告

事業実施後、実績報告書を障害保健福祉推進室にメール又はファックスで提出してください。

【注意事項等】

- 同一年度の同一の学校からの申込みは2件まで（同一の児童・生徒を対象とするものは1件まで）です。
- 事業は1日で完結する内容のみとします。

申込み・問合せ先

京都市保健福祉局 障害保健福祉推進室 みやこユニバーサルデザイン推進担当
TEL：075-222-4161 FAX：075-251-2940 メール：syogai@city.kyoto.lg.jp
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000233831.html>

ほほえみ交流活動支援事業



障害の有無にかかわらず、誰もが安心して暮らせる共生社会を実現するため、障害のある人となない人が相互に交流し、障害や障害のある人への理解促進を図る

「ほほえみ交流活動支援事業」を実施しています。

ぜひ、学校や地域の子どもを対象とした障害理解のための取組にお役立てください。

ほほえみ交流活動支援事業推進委員会

事業内容



障害の体験 ・交流学習



学校の授業や課外活動で、児童・生徒と障害者団体が交流し、障害の体験・交流学習を実施します。

テーマ
(例)

- 下肢に障害がある人からの体験談、車いす体験
- 難聴者からの体験談、要約筆記の体験
- 視覚障害のある人の体験談、手引きや点字の体験
- 手話体験 ● 自閉症の疑似体験、発達障害の解説
- 知的障害の疑似体験 など

学校の授業や保護者会、職員研修会などへ、障害や障害のある人への理解を深めるための講演の講師を障害者団体が派遣します。

テーマ
(例)

- 「身体障害者のこれからの地域生活を考える」～親の思い、現状と課題～
- 肢体障害者の日常生活
- 視覚障害者の理解について
- 聞こえにくいということ
- 精神障害のある人と地域社会の中で共に生きていくためには
- 発達障害ってなんだろう？
- 知的障害って何？どのように接すればよいの？
- インクルーシブ教育に向けて、筋ジストロフィーと出会ったら
- 脳性マヒってどんな障害？ など

出前 講演



障害者 福祉施設の見学 ・交流学習



障害者授産所や障害福祉施設の見学、卓球バレーを通じた施設利用者と児童・生徒との交流などをしていただけます。



実施テーマや実施団体等の詳細については、ホームページをご覧ください。

ホームページ： <https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000233831.html>

京都市 ほほえみ交流 で 検索

<実施団体>

京都市肢体障害者協会、京都市中途失聴・難聴者協会、京都府視覚障害者協会、京都市聴覚障害者協会、京都市身体障害児者父母の会連合会、京都府自閉症協会、京都手をつなぐ育成会、京都精神保健福祉推進家族会連合会、日本筋ジストロフィー協会京都支部、京都重症心身障害児(者)を守る会、京都腎臓病患者協議会

事業を実施された学校等からの感想

手話について「何となく知っていた」子どもたちが、事業を通して手話に興味を持ち、「手話でコミュニケーションを取れるようになりたい」と思いを膨らませることができました。質問にも丁寧に答えていただき、学習前に抱いていた疑問も解決したようでした。

体験・交流学習の前は、子どもたちは障害がある方はどこか「かわいそうな存在」と見ていましたが、今回の学習を受けて、「強く生きていかっかしい」「尊敬する！」とイメージが大きく変わったようでした。

社会にはいろいろな立場の人がいて、みんなが住みやすい社会とは何かということを考えるきっかけになった。

卓球バレーを通じて、障害の有無にかかわらず交流できるスポーツがあることを知り、障害のある人との距離が縮められました。

「これまで、視覚障害のある人を見かけても、どのように手助けをしたらよいかわからなかったけど、今日の学習で手助けの方法がわかったので、困っている人を見かけたらまず声をかけて、手助けをしたいと思います。」と感想を述べた児童がいました。

自分にとって便利でも、他のだれかにとっては不便なことがある。大切なことは、互いに人を思いやり、考えあうこと、それが、誰にとっても暮らしやすい町に繋がるということを学びました。